

令和5年度 自己評価並びに学校関係評価報告書

1. 本園の教育目標

- ①自分のことは自分でできること
- ②「おはよう」の挨拶ができること
- ③「ありがとう」と、すぐにお礼を言えること
- ④人の目を見て、しっかりとお話を聞けること
- ⑤自分の思ったことを、言葉で伝えられること

集団生活を通して、幼児一人ひとりの自主性を育み、豊かな心や良い生活習慣、また人間関係に向かう意欲や態度を培います。また、環境を通じて、丈夫な体を作るとともに、「素直な心」「くじけない心」「優しい心」「思いやりのある心」といった人としての心を育てられるよう、「バランスのとれた保育と教育活動」を目指します。

2. 令和5年度重点的に取り組んだ目標・計画

令和4年度は、コロナ渦の中での日常の保育や行事のあり方を、ねらいから問い直す機会が与えられた。令和5年度は、コロナが5類へ移行し規制が徐々に緩和されたので、昨年度とは異なる観点から日常の保育活動や行事を見直した。

前年度には、スクールバス内に園児が置き去りにされ死亡するという事故が発生し、社会的に大きな問題となった。当園でもそれを受け、置き去り防止のための警報機をスクールバスに設置した。また、園児の出欠席は担任が確認後、その状況を事務所に報告し、ダブルチェック体制を整え、このような事故が起きないような対策に取り組んだ。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	取り組み状況
1	教育環境の構成	鉄棒、タイヤブランコ、大きな滑り台、ジャングルジム等、園庭のスペースを区画分けし、教員の見張り当番を決めてビブスを着用し、子どもたちからも見張りの仕事をしていると視覚的にわかるようにした。 教員もビブスを着用することで、見張りに徹するという意識を持つことができた。
2	保育の在り方 幼児への対応 (健康と安全への配慮)	コロナが5類へ移行した後も、コロナ感染や他の病気の流行を考慮し、教員は引き続き気を緩めることなく、子どもたち一人ひとりの体調に気を配り、衛生習慣を徹底して生活してきた。今後も、子どもたちが良い衛生習慣を身につけられるよう指導していきたいと考える。

3	保育の計画性 (保育と計画の評価反省)	園内研修は、各学年で教員が話し合い、参考にしたい保育を参観し意見交換する方法で実施している。これにより、教員にとって新しい気づきや発見があり、それを各自の保育に生かしている。教員の学ぼうとする意欲や向上心が育まれていることを感じる。今後も職員一丸となり、より良い保育を目指していきたいと考える。
4	安全管理 (施設設備・園児に対する安全対策)	地震・火災に対する避難訓練は月1回実施している。また、園児の保護者への引き渡し訓練は年1回、防災の日に因んで毎年2学期始業式に実施している。 水害、洪水時の避難マニュアルも作成した。避難先の会社には了承を得ているが、相手方の業務の都合もあるため、教職員のみで机上訓練を実施した。 建物すべて耐震構造となっているが、非構造部材の耐震点検は職員が年1回実施している。

4.幼稚園評価の具体的な目標の総合的な評価結果

令和5年度は、毎日の保育の中で、安全について考える機会が多かった。スクールバスは、より安全性を高めるための対策をし、園庭での遊びでは、職員の目が離れた時のけがが多かったので、危険な所がどこか、どのようにサポートしたら安全に遊べるかを教職員みんなで見直し対策を考えた。

日常の保育の中で、安全については気を付けてやっていると思っている事も、見直す事により、改善点を見つれたりすることができ、我々教員にとって注意喚起となりとても良かったと思う。

5.今後の取り組むべき課題を考える

	課題	具体的な取り組み
1	保護者への対応 (情報の発信と受信)	令和6年度は、コロナ渦で中止となっていたクラス懇談会と給食参観をクラスごとに実施する。この行事を通じて、クラスの様子や園の保育方針等を保護者にしっかりと伝え、理解を深めていただく機会とする。また、給食の様子や食育についても保護者に知っていただける場としたいと考えている。 さらに、これらの行事の際だけでなく、日常的に園児の成長や良い情報を保護者に伝えるよう心がける。
2	保育の在り方 幼児への対応 (保護者同士の協力・連携)	今年度は、新人教員が3名加わり、育休から復帰した教員も複数名増えたため、スタッフの構成が変わった。教職員全員が園の方針をしっかりと理解し、全ての園児に関する情報を共有・理解できるように、工夫しながら努めていく。
3	地域や自然や社会との関り (小学校との連携)	また、幼保小の円滑な接続に向け、小学校のスタートカリキュラムについて学び、「架け橋期」における教育課程という観点から園の保育について教員で見直していく。

6.学校関係者の評価(令和5年度自己評価に基づく)

○学校関係者評価・意見

日頃より、子どもたちの安心・安全を最優先に、細やかな見直しや改善に取り組んでくださり、心より感謝申し上げます。

バスの置き去り事故に対しても、迅速な対応を行ってくださったおかげで、安心して子どもたちを送り出すことができました。また、災害に対する備えとして避難訓練を行うことで、先生方だけでなく、子どもたちにも安全意識がしっかりと培われていると感じております。今後も保護者との連携を深めながら、安心・安全な園生活が続けられるようご尽力いただけますと幸いです。

駐車場については、登園・降園時に混雑しがちですが、門前で先生が交通整理をしてくださっており、大変助かっています。しかし、特に15時から16時台はお迎えが集中するため、少しでも時間にゆとりがあるとさらに良いのではと感じています。

コロナ対策が緩和されたことにより、給食参観や「山のくらし」など、以前のような参観や行事が少しずつ戻り、喜ばしく感じています。また、日頃の園での様子や子どもたちの成長についても日常のご報告いただけることが、子どもたちの豊かな心を育むことに繋がっていると感じます。

保護者と園が連携し、子どもたちの成長を共に見守っていただけることを願っております。

ここからは、先生方にピアノを指導する立場からの意見です。新人の先生方は年齢や卒業校もさまざまですが、皆さん明るく前向きで、教えたことをその場で吸収し、練習に活かしておられる姿に将来を楽しみに感じています。後輩を育てる先生方も包容力があり、保育指導中も丁寧に観察しながら協力し合っている様子が見受けられます。

ピアノ伴奏についても、どの先生も熱心に取り組まれており、必要な曲の伴奏を事前に練習したり、季節外の曲を弾いたり、技術的な向上に努めておられることを感じました。ただ、先輩から譲り受けた楽譜には音名や運指、省略する音などの書き込みがあり、少し気になる点がございませう。楽譜は基本的にオリジナルの通りに演奏することが望ましく、簡略化する場合も小節数を変えずに必要な音を残し、全員で統一された伴奏ができるようにするのが理想かと考えます。楽譜の使い方について学年で確認し、共通の理解を持つことが良いと思います。

歌唱の取り組みは年々向上しており、美しい声の指導を通じて子どもたちの歌唱力が上達していることを、多くの先生方が喜ばれているようです。これは先生方自身の歌唱力の向上にも繋がっていると感じています。

園長先生をはじめとするベテランの先生方は、それぞれの個性を認め合いながら、力を合わせて保育・教育に取り組んでおられます。若い先生方も安心して意見を述べ、音楽教育を含めた保育の質の向上に努めていただけることを願っております。

○学校関係者評価

評価者

前保護者会長

角谷 良子 様

現保護者会会長

田中 晶子 様

元名古屋文化学園保育専門学校教員

園内研修(ピアノ・幼児音楽担当)

加藤 洋子 様